

「英語の話を先生へ脱皮し 不可かつ急務だ」。
よう」と、過去十年間に県下の 福田教授の指摘の通り、英語
中、高校の英語教師二百二十人 を託せる英語教師がわずか二割
（全体の二三割強）が「断続研 しかない」とすれば、事態は深
修」を受講したことを紹介して 刻。先生たちに猛省を促す声も
きた。

しかし、教師の熱心な努力に 多い。
もかかわらず、県下の英語教育 で昭和四十五年、全国でも初の
全体からすれば、顕著な好転の エニークな実験が始まった。
兆しは見られていない。熊本大 「教員集中訓練計画」（略称「

なぜ 英語が話せないの

<15>

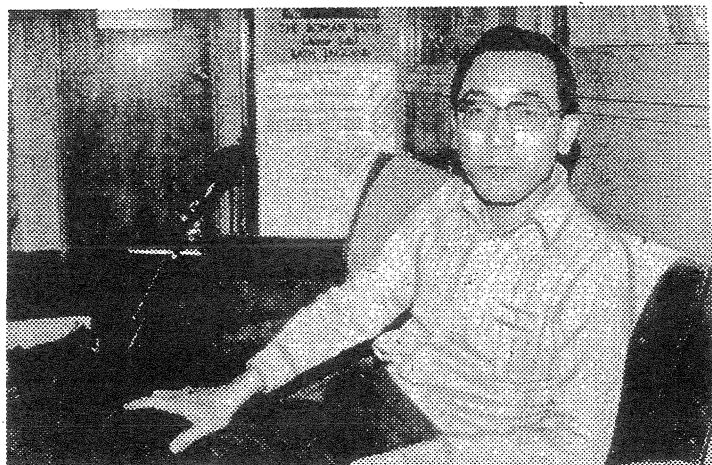
学の福田昇八教授によれば、そ T.C)がそれで、実施された四
の理由は「英語教師の八割が敵 年間に同県下の中学の英語教師
密に言えば、英会話ができず、 の六〇割、高校の先生は七五割
授業で教科書を一歩も離れるこ が参加した。福岡県の「断続研
とができないため」である。 修」を受けた「二三割強に比べる

「日本人の九五割近くが高校 と、いかに大がかりな計画かが
までの六年間、英語を習いなが わかる。
ら、大半の生徒は外国人と簡単 I.T.Cを指導した福田教授に
な会話も交わせない。入試英語 よると、計画の実現は大変だっ

の弊害や時間不足にも一因があ たりし。
るにせよ、教師自身の向上は、 「第一、この研修参加者は二
東京で産声を上げた。

当初、懸念された資金不足も 当初、懸念された資金不足も
フォード財団が助成金を出し、 派遣した。また、I.T.Cの意図
を知ったカレッジ・ウィミング の困難は突破できることが分か

75名参加の集中訓練 熊本でユニークな実験



「英語教師の会話力向上が急務」と語る福田昇八熊本大教授

行政的には熊本県教委が全面的 に協力、ワシントン 日米協会
・アンシエーション・オブ・ツ った」と述懐する。I.T.C誕生
ヤパンも定期的に来米講師を派 までの経緯、集中特訓で先生た
遣している。 ちがどう変わったかなど、次回
福田教授は、当初を振り返り から五回にわたって紹介する。